

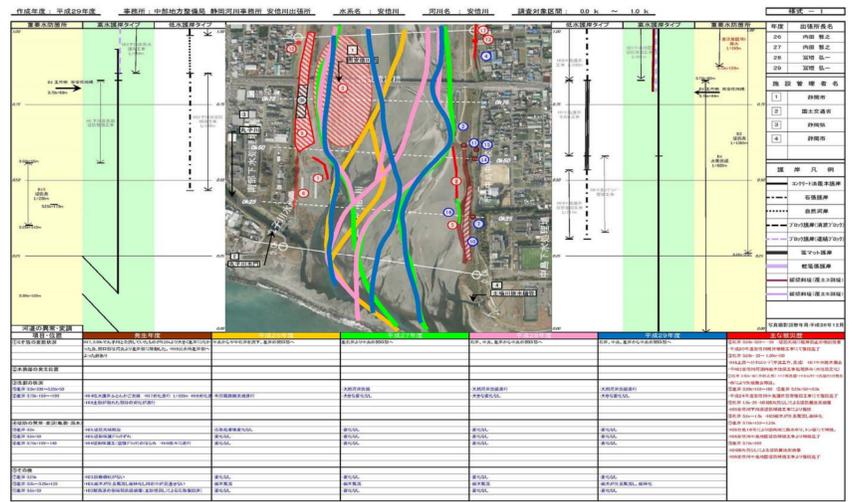
河川カルテを基にした 保全施設等の年表整理

河川管理をわかりやすく効果的に。

河川カルテの活用で河川の特・経緯を効率的に把握する

河川カルテ = 川の診療録

河川管理施設の変状や被災、それに伴う補修履歴等について、各年度・各距離標ごとに取りまとめている。加えて、高水・低水護岸の種類や重要水防箇所、滞筋・流水部の変遷等も視覚的に理解することができる。河川カルテの活用により、河川管理を行う上で重要な**河川特性及び過去の被災・修繕の経緯の把握**が容易となる。しかし、この便利な河川カルテにもまだ改良の余地がある。



さらに便利に、わかりやすく。過去16年分のデータの取りまとめ

1つのカルテに記載されている情報は当該年度と過去3年度分のみであり、中長期的な被災頻度等を調べるには手間がかかる。そこで、現在保有している平成14年～29年(取りまとめ時)のデータを集計・精査し、1つの資料とした。

年度	距離標	施設名	内容	備考
2014	0.0k	H14	矢板前及び平面洗掃	
2015	0.0k	H15	堤防復旧	
2016	0.0k	H16	再洗掃	
2017	0.0k	H17	水害復旧	
2018	0.0k	H18	河川改修工事	
2019	0.0k	H19	河川改修工事	
2020	0.0k	H20	河川改修工事	
2021	0.0k	H21	河川改修工事	
2022	0.0k	H22	河川改修工事	
2023	0.0k	H23	河川改修工事	
2024	0.0k	H24	河川改修工事	
2025	0.0k	H25	河川改修工事	
2026	0.0k	H26	河川改修工事	
2027	0.0k	H27	河川改修工事	
2028	0.0k	H28	河川改修工事	
2029	0.0k	H29	河川改修工事	

発見された問題

- ・年度によって表現・表記にバラつきがある。
- ・古いものは現在と違う様式を使用している。
- ・突然記載が無くなった箇所がある。

表現のバラつきの例：「変化無し」

変化無し → 通常通り問題なし？
変化無し → 変状・被災のまま？

まず、各カルテ下部に記載されていた被災・補修歴等を年度で揃える。

年度	距離標	施設名	内容	備考
2014	0.0k	H14	矢板前及び平面洗掃	
2015	0.0k	H15	堤防復旧	
2016	0.0k	H16	再洗掃	
2017	0.0k	H17	水害復旧	
2018	0.0k	H18	河川改修工事	
2019	0.0k	H19	河川改修工事	
2020	0.0k	H20	河川改修工事	
2021	0.0k	H21	河川改修工事	
2022	0.0k	H22	河川改修工事	
2023	0.0k	H23	河川改修工事	
2024	0.0k	H24	河川改修工事	
2025	0.0k	H25	河川改修工事	
2026	0.0k	H26	河川改修工事	
2027	0.0k	H27	河川改修工事	
2028	0.0k	H28	河川改修工事	
2029	0.0k	H29	河川改修工事	

変状・被災箇所ごとに損傷・補修の履歴についてまとめたもの。

繰り返し被災を受けている箇所がみえてくる。

まとめとこれから

河川管理をする上では、河川の特・経緯を把握しておくべきである。

しかし、私達は1つの事務所に長く留まることはできない。

そのため、河川カルテのように形に残るものとして、**継続的に記録・見直しを行っていく**ことが大切。

また、同じ河川管理用のシステムとしてはRiMaDISがあるが、河川カルテでは網状河川における滞筋の記録がそうであるように、

河川の特・経緯を踏まえた記載方法を採る事ができるため、それぞれの長所を生かしてより効率的で効果的な河川管理を行っていきたい。

他年度のカルテ及び工事履歴等を基に記載情報を

精査・修正し、表現の統一等も行った。

依然記載情報が不確定な部分等は赤書きとしている。

左の表は被災・変状についてのものだが、

その他にも滞筋の変遷や水衝部等について別様式で

まとめている。